

令和6年度 東京都立大泉桜高等学校 学校経営報告

東京都立大泉桜高等学校長
尾崎 肇

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

①学習活動

- *全教科を通じて、「リーディングスキル」向上、基礎学力向上を図った。
- *「チャーム着席」の実施、「あいさつ」の励行、「家庭学習の習慣化」(A 予習の必要な授業展開 イ 宿題・課題を課す授業 ウ 小テスト・復習テストの実施) 自力学習時間毎日1時間以上を目標にして、教員に共通認識させ学校として継続した指導体制を定着させた。
- *美術デザイン系では、絵画Ⅱ及びビジュアルデザインⅡを選択した生徒 65名が、絵画、ビジュアルデザイン作品を制作しての「卒業制作展」を練馬区立大泉学園ゆめりあホールで実施した。
- *全学年で一人1台端末を活用し、Classi等を活用した授業を展開するとともに、課題配信、ガイダンス、健康観察等を実施した。
- *夏季休業中の講習については、5教科、美術、情報科目等22講座を実施した。

②進路指導

- *本校の学校教育の中軸にキャリア教育を据えて、3年間を見通した進路指導計画を作成し、キャリアガイダンスの授業の一層の充実を図る共に、進路の手引きを充実させた。
- *卒業後の進路選択を意識づけさせるために、上級学校訪問、実力テストのWeb 解答等を行い、ICT 利用度の向上やキャリア発達意識を刺激する学習活動を展開した。
- *18期生の進路決定率は98.3%であった。

③生活指導

- *遅刻指導、頭髪・服装指導を繰り返し徹底した結果、授業を含めて、暴力等のない安全で、落ち着いた秩序ある雰囲気維持することができた。遅刻人数については、昨年度より改善された。
- *校則の見直し 昨年度、一部校則の見直しを行ったが、引き続き、生徒会を通して生徒の意見を取入れ、見直しが図れるよう調整を行った。
- *特別な支援が必要な生徒に対して生活指導部と特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援委員会及び学校いじめ対策委員会を実施した。

④特別活動・部活動

- *部活動加入率は71.5%となり、コロナ禍の影響で中学時代に十分な部活動が行われていないこともあり、活動を希望する生徒の増加が見られない。
- *体育祭、文化祭は、全学年同時開催をし、体育祭は一般公開なし。文化祭は一般公開を実施。防災訓練は、災害概要説明、避難所体験、簡易担架等作成、簡易トイレの組立、AED訓練を練馬区区民防災課と連携し、本校で実施した。
- *美術部が東京都明るい選挙ポスターコンクールで最優秀賞1名受賞、優秀賞3名受賞した。吹奏楽部が夏に行われた東京都高等学校吹奏楽コンクール C 組で銀賞、冬に行われた東京都高等学校アンサンブルコンテスト管楽四重奏で銀賞を受賞した。フェンシング部が関東大会に男女共に出場、新人戦大会女子フルーレ個人優勝、男子サーブル学校対抗準優勝、学年別大会1年女子の部3位、2年男子の部3位に入賞した。

⑤健康づくり

- *交通安全教室やセーフティ教室・薬物乱用防止教室等を実施し、生徒の安全に配慮した。

*スクールカウンセラーが生徒の意識調査を実施し、その結果を生徒のメンタルケアや個別指導に活用した。この他、巡回心理士を昨年度に引き続きお願いし生徒のメンタル向上に努めた。さらに、コンディションレポート活用週間を2回実施した。

*都教育委員会のエンジョイスポーツプロジェクト事業を活用し、ボッチャ等新しいスポーツや、専門家による健康に関する講義を行った。スポーツや健康に関する関心を高め、スポーツの楽しさを感じることができた。

⑥募集・広報活動・地域交流

*学校見学会、学校説明会、個別相談会、美術特別推薦説明会は、HPで事前予約により1回の参加人数を制限して実施した。外部説明会は、都立合同説明会以外にも参加し、対面で個別相談を実施した。結果として1892名の中学生・保護者の来校や相談があり、昨年比では167名の増加となった。

*中学校訪問を全教員で、在籍生徒数の経年変化を基に練馬区・板橋区を中心に行い、87校実施した。今年度は新たに比較的通学が容易な国分寺市の中学校3校を加えた。

*夏の学校見学会と出願直前個別相談会を3回実施した。

*教科「人間と社会」の授業では、学校外での体験活動、社会貢献活動を実施した。

⑦学校経営・組織体制

*学校評価アンケートで、入学して良かった(生徒)85.0%、入学させて良かった(保護者)88.0%で昨年度より若干減少したが、高い数値を維持している。

*校内美化や環境整備にしっかりと取り組むことができ、地域からの評価も良かった。

*生活指導部の保健担当による生徒会の美化委員会指導の徹底によるごみの分別、持ち帰り運動を実施し予算削減・経費削減に貢献した。

*次年度予算編成では、経営企画室が中心となり学校経営計画に基づき各教科・各分掌の申請を調整し適正に過不足なく予算編成した。

⑧ライフ・ワーク・バランスの実現

*長期休業中では在宅勤務を推奨し、オンラインを活用した学習指導や進路指導を行った。

*時差勤務や在宅勤務、部活動指導員等の活用により、ライフ・ワーク・バランスの実現を図り、業務負担の軽減にもつながった。

*職員会議は、資料を印刷しないで端末で閲覧し、学校説明会の予約は電子申請を活用し、生徒・保護者への連絡は、印刷物よりオンライン統合型学習支援システムをなるべく利用するなど、業務の効率化に向けた取組を行った。

*休暇取得の推奨、休暇を取得しやすい雰囲気づくりを推進した。

(2) 重点目標への取組と自己評価

①学習指導・生活指導・・・生徒が誇りを持って学校に通い授業を大切に、部活動・学校行事に主体的、積極的に取り組む姿勢を育てる。

【数値目標】◎自力学習時間 毎日1時間以上 (令和6年度実績 全校平均89.1分)

◎部活動加入率75%以上 (令和6年度実績71.5%)

◎1日当たりのクラス遅刻人数0.25人 (令和6年度実績0.27人)

【結果分析】

*ICTを活用した学習において、各教科から配信で課題が提供され、学習していることもあり、目標時間を上回った。しかし、将来の進路実現に向けた生徒、各自の取組の弱さから時期によって自力学習時間の偏りが見られる。

*コロナ禍での学校生活の活動制限により、生徒は中学生時代に部活動が行えていないことやコロナ禍での経済の停滞による影響などから、昨年度同様、部活動加入率が低くなってしまった。

*遅刻者は1日当たりのクラス遅刻人数が昨年度とほぼ同程度となった。

②進路指導・・・早い段階での希望進路決定、より高い目標を目指す意欲を育てる。

【数値目標】◎四年制大学進学率40%以上 (令和5年度実績35%、令和6年度実績49.7%)

- ◎美術系大学・学部等への現役合格者実績**35名以上**（令和5年度実績**29名**、令和6年度実績**33名**）
- ◎看護・福祉・教育系進学者数**45名以上**（令和5年度実績**23名**、令和6年度実績**21名**）
- ◎文系理系大学・短大の合格者実績**60名以上**（令和5年度実績**61名**、令和6年度実績**41名**）
- ◎進路決定率**95%以上**（令和4年度実績**98.0%**、令和6年度実績**98.3%**）

【分析結果】

ここ数年、大学受験は中間層の大学が年内入試を行うことで、多くの生徒を確保する傾向がある。これらの大学は、本校の生徒の志望校とも重なるため進路指導が推薦などの年内受験を目標とせざるを得ない状況になっている。専門学校でも募集の前倒し状態が伝統校や中堅校に広がる傾向がある。進路状況は、17期生に比べ専門学校志望者が減少し、大学進学志望者が以前の割合に戻った。総合型選抜志向は依然高い傾向であるが、アピールできる内容（部活・課外活動・ボランティア活動など高校生活で頑張ったこと）・体験の充実・深化・基礎学力の向上が課題である。

今後も本校のキャリアガイダンスの充実を図るとともに、生徒一人一人に合った進路の選択、外部模試などの結果を見据えて1年次からの学力向上と計画的な進路指導が必要であり、校内の学習とあわせて学年、教科、進路などの情報連携が必要である。

- ③募集対策活動・・・本校の特色を理解して目的意識をしっかりと持った生徒が多く入学を希望する学校をつくる。

【数値目標】◎入試応募倍率を一次募集において、**1.1倍**を目指す。（令和6年度実績一次募集**1.22倍**）

◎体験授業（入試対策講座を含む）の参加者を**500名以上**にする。（令和6年度実績、**573名**）

◎学校見学会・学校説明会・個別相談会等による来校者数は**1800名**を目標とする。（令和6年度実績**1892名**）

◎HP更新回数**190回以上**（令和6年度実績**260回**）

【結果分析】

*募集対策は本校の重点課題であり、中学校訪問や塾訪問では新規に訪問先を開拓し、本校をより広く知ってもらう努力をした。また、入選出願の直前には個別相談会を実施したが、予想以上に好評であった。体育祭・文化祭の公開以外に様々な工夫により令和7年度応募倍率は昨年度よりさらに改善を図ることができた。

- ④学校評価・・・生徒から見た、学校生活に対する満足度の向上。

【数値目標】◎入学して良かったと感じる割合**90%以上**（令和6年度実績**85.0%**）

◎進路選択に生かされていると感じている割合**85%**（令和6年度実績**90.0%**）

【結果分析】

*学校評価アンケートの結果から、目標値には届かなかったものの満足度は高いと考えられる。これは、美術の授業内容の充実や英語・数学の習熟度別授業の実施、単位制高校の特徴でもある選択科目の充実が評価されていると考えられる。一方、施設については、母体校の校舎を使用しているため、全体的に古く、不満の声が一定数ある。また、規範意識やマナー等の生活指導についての不満も見られた。

*多くの生徒・保護者は、単位制の特徴を活かした本校の教育活動や進路学習への満足度が高く、大学や専門学校への進学も実績を上げている。これは、1・2年次に実施しているキャリアガイダンスをはじめとしたキャリア教育が成果をあげていると考えられる。

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 募集・広報活動の徹底

応募倍率については、今年度は一次応募倍率**1.22倍**と昨年度を上回った。進路実績、生

活指導の徹底で学校生活は充実してきていると考えているが、駅からの距離が遠いというハンディキャップを埋めるだけの普通科高校としての魅力を出していくことが、喫緊の課題である。

HPや SNS を活用した情報の発信や、教員による中学校・学習塾への積極的かつ複数回の訪問を徹底させつつ、中学生やその保護者さらに地域の方々に、学校・生徒の様子を見てもらう機会を増やす等、魅力ある募集・広報活動のさらなる工夫が必要である。

(2) 単位制を活用した特色ある教育課程の編成

本校の特色を生かした教育課程の実施、観点別評価の実施の工夫、一人一台端末を活用し、生徒一人ひとりにあった個別最適な学びの充実、学校設定科目の内容の工夫を引き続き行っていく。

(3) 教員の授業力の向上

①平成22年度から継続して実施してきた

○チャイム着席の実施

○あいさつの励行

○家庭学習の習慣化（具体的には、予習の必要な授業展開、宿題・課題を課す授業、小テスト・復習テストの実施に加え、週末課題を課して家庭学習の習慣化を図る。）

は継続して実施し定着を図った。オンライン統合型学習支援システムの有効活用も進んでいる。

②教職大学院連携協力校の取組

*教育実習生による授業の他に今年度も、教職大学院と連携した大学院生による授業も実施した。授業の構成も工夫されており、生徒だけでなく教員にも良い影響を与えた。

(4) 第一希望の進路実現を図る進路指導の充実

3年間を見通した進路指導計画を作成し、生徒、保護者の目に見える形で提供し、生徒の進路目標実現の準備を円滑に行った。具体的な進路希望に沿った講習や補習、推薦などに対応する面接や小論文指導等を、きめ細かく設定し、生徒が意欲と高い目標をもって進路に向けた準備ができるように対応した。今後は、進路学習についても、データに基づいた個別最適化を進め、個々の進路希望に対する支援体制を充実させる必要がある。